

語句の指導をどのようにしたらよいか

記録の文章を読む「どうぶつのえさ」

(東書・2年)

足利市立東小学校 刑部しげる

1 はじめに

子どもの作文や生活日記を見ると、既習漢字の使用率が悪く、「それから」「そして」などの使
い方の誤りやくり返しが多く、指示語なども適切に使用されているのはあまりない。これらの問題
点は、いずれも文字・語句の使い方が身につけていないためである。

語句指導のねらいは、理解された文字や語句は自分のものとして、身につかせなければなら
ないと考えられる。すなわち、作文や会話の中に使用できてこそ、身についたといえてよからう。学習指
導要領に示された2年の目標を見ると、「読むために必要な文字や語句を確実に身につけるように
する。」「文章を書くために必要な文字や語句を確実に身につけるようにする。」などがある。「確
実に身につけさせる。」ということは、語句の意味を辞書的な言いかえによって理解させるのでな
く、話の内容や文脈にそって、語句そのものの働きに即して、その語句の意味を深く理解させるこ
とが必要である。そのうえ、語句の量を増し、範囲を広げ、使用したり、応用することができな
ければならないであろう。

私の、語句指導をふりかえてみると、思いつきの指導のために、語句の力が身につかなか
ったものと思われる。そこで、どの語句を、いつ、どのような方法で指導したらよいか、語句指導に重
点をおいて実践してみた。学年別に指導語句の系統化をはかることや、各学年の年間指導計画にお
ける指導語句の配当など、多くの研究すべき問題はあるが、ここでは、大きな視点に立つての計画
化でなく小さく一単元、一教材を指導するにあたってどのように語句の指導を位置づけたかを報告
する。

2 教材研究における語句のとりあげ方

語句指導のための教材研究は、何を(どの語句を)、いつ(どの指導過程で)、どのように(ど
の方法で)指導するのか、明らかにしなくてはならない。

① はじめに指導すべき語句の選び方であるが次のような選定基準を設けて語句を選んだ。

A 読みの抵抗となる文字・語句
(文字の上から抵抗のあるも
の)

B 読みとりを深めるために必要
な文字・語句(表現とのかか
わりあいから抵抗が予想され
るもの)

- 新出、読みかえ漢字
- 難読語句
- 地名・固有名詞・その他の専門用語
- 段落の要点、要旨をささえる中心語句
- 内容を理解するために必要な重要語句
- 指示語・接続語、文末表現など
- 例示に関する語句
- 省略されている語句

- | | |
|---------------------------|--|
| C 深化、拡充をはかる必要のある
文字・語句 | ・新出、読みかえ漢字
・ことばのきまりに関する語句
・用法を確実にすべき重要語句 |
|---------------------------|--|

それと同時に、ノートにわからないことばや、読めないことばを書き出させたり、本に印をつけさせたりして、事前の調査をし、児童のつまずきの実態から考察して、指導語句を決定している。

- ② 次に、いつ指導するかということになるが一度だけではなく、数多くふれる必要があると考える。しかし、すべての語句を数多くの指導過程で扱うことも不可能であるから、語句の性質から次のように、主として指導する過程を決めた。

- | | | |
|---|----------------------|------------------|
| A | 読みの抵抗となる文字・語句…………… | 概観して学習の計画をたてる段階で |
| B | 読みとりを深めるために必要な文字・語句… | 内容を追求して深める段階で |
| C | 深化、拡充をはかる必要のある文字・語句… | 整理して練習する段階で |

- ③ こんどは、どの方法で指導するかについては、語句の扱い方の類型をいくつか準備し、選定された語句のそれぞれは、どの方法で指導するのがよいか、あらかじめ計画しておくことよ。指導の方法としては、次のようなものが考えられる。

1. 実物・写真・絵など視覚によって理解させるもの（視覚）
2. 実際にやってみることにより、実感としてとらえさせるもの。（動作化）
3. 経験を想起させ、語と意味とを結合させるもの（経験）
4. 定義を与えなければならないもの（定義）
5. 同類語・反対語などから語と意味を結合させるもの（同類・反対語）
6. 文脈の中でその意味を類推させるもの（文脈の中）
7. 解説することで理解させるもの（解説）
8. 辞書によってとらえさせるもの（辞書）
9. 語源を明らかにして理解させるもの（語源）
10. 引例によるもの（引例）
1. 語句の構造を分析して理解させるもの（構造）
12. 熟語・短文など作らせ、実際に使用させて理解させるもの（短文づくり）
13. 用例を比較することにより理解させるもの（比較）
14. 語句を省略してそのはたらきを理解させるもの（省略）
15. 該当する語句を指示語の部分におきかえて理解させるもの（置きかえ）
16. 発音を比較することによって、理解させるもの（発音）
17. 読みや筆順などをわからせるもの（読み・書き）

(かんじノートの例)

く草				おも思			
草	草	草	草	す	思	思	思
。	も	、	、	。	い	う	う
草	ち	草	草	思	出	思	思
む	。	、	、	っ	ち	う	う
ら	草	草	草	た	よ	思	思
。	か	、	、	。	う	う	う
草	り	草	草	思	。	思	思
は	。	、	、	わ	思	う	う
ら	か	草	草	ず	い	思	思
。	れ	、	、	。	出	う	う

低学年においては、いろいろな方法で指導し語句に対する興味と関心をいだかせるようにすることがたいせつである。

④ また、指導の方法の中には、どのような作業をさせながら指導するのかという問題もあろう。

- ・読みの抵抗となる語句 こくごノートに書き出す。
本に線をひく。
事前テストをする。
- ・新出漢字・読みかえ漢字 かん字ノートに練習する。
かんじドリルで練習する。

左下表の使い方は、半分において読みの練習には、上段を使用し、書く練習には下の段を使用させる。

(かんじドリルの例)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
何ページまでよみましたか。 <small>何</small>	うみは青い。 <small>青</small>	花がさいている。 <small>花</small>	けさは六時に目がさめた。 <small>時</small>	池の水がつめたい。 <small>池</small>	山の方に月がでた。 <small>方</small>	東のそらがあかるくなる。 <small>東</small>	校門が見える。 <small>門</small>	あかちゃんがよちよち歩く。 <small>歩</small>	よい考えをおもいついた。 <small>考</small>
なんべいじまでよみましたか。	うみはあおい。	はながさいている。	けさはるくじにめがさめた。	いけのみずがつめたい。	やまのほうにつきがでた。	ひがしのそらがあかるくなる。	こうもんがみえる。	あかちゃんがよちよちあるく。	よいかんがえをおもいついた。

・深化拡充をはかるための練習

教科書の「れんしゅう2」で

プリントで

こくごドリルで(日本標準テスト研究会)

こくごノート(短文づくり)

かんじノート(ことばづくり)

・読みとりを深めるために必要な語句
作業用紙で

以上のように、いろいろな作業をさせることにより、語句指導を徹底させようとした。

3 指導の実際

<きろくの文しょうを読む「どうぶつのおえさ」を中心に>

A 教材研究

1. 指導目標

○文章に即して、内容的に読みとること。

子どもたちは文しょうの一部分や、ことばの一部分から、自分の経験を

くみ)

)

想起し自己中心的な読みに、はしりやすい。そこで、あくまでも、本文の表現に即して書いた人が、「見たこと」「聞いたこと」「思ったこと」とおさえながら読みとらせたり、各動物についての記述のしかたを比較しながら読みとらせたりすることにより、文章に即して読みとる態度を身につけさせたい。

- 見たこと、聞いたこと、思ったことを読み分けること。

聞いたことの表現に直接話法と間接話法があるので、伝聞の記述のちがいに目をむけさせたり、思ったことや見たことの文末表現のちがいに注意して読ませたい。

- 語いを増し、かたかなのことばに慣れさせるようにすること。

並列の表現、伝聞と様態、使役の表現副詞など、ことばに関する事項がかなり多く見られるので、語句に、児童の関心をむけさせるのに、よい教材と思われる。

2. 教材の系統と内容

児童自身が表現した文章は1年生から、数多く学習してきたが、それらはすべて生活文であった。記録・報告の形で出てきたのは、この単元がはじめてである。この記録文は、動物園へ行って動物にえさをやるところ、動物のえさを作っているところを見てきた児童が「ぞう」「ゴリラ」「ライオン」がえさを食べるようすや動物園の係りの人に聞いたこと、えさを作っているところのようすを感想をまじえて報告したものである。これは、見たこと、聞いたこと、思ったことを文章に即して読みわけることにねらいがあり、2年下巻「ひこうきにのった」に発展して行くものである。4年上「8 観察記録を読む じがばちの観察」 5年下「9 報道文を読む、報道文の読み方」、6年上「7 記録文を読む (1)耕される鳥取砂丘 (2)深海をさぐる」などにつながるものである。

3. 文章の組み立て

どうぶつのえさ

- | | |
|-------------|---|
| I 前書き | ① どうぶつえんに行って、 どうぶつにえさをやるところ 見て来ました。 |
| II ぞうのえさ | ① ぞうのとやへ行くと、かかりの人が、オート三りんから、わらをおろして
} いました。
⑥ |
| III ゴリラのえさ | ① ゴリラのところへ行くと、ゴリラが、バナナをもらっていました。
}
⑤ |
| III ライオンのえさ | ① ライオンの子どもが牛にゅうをのんでいました。
}
⑤ |

- | | |
|-----------------|--|
| IV えさをつくっているところ | ① えさを作っているところ 見せてもらいました。
}
⑦ |
|-----------------|--|

以上のように、前書き、ぞうのえさ、ゴリラのえさ、ライオンのえさ、えさを作るところの5つの部分から構成されているが、全体的には、動物がえさを食べるようすと、えさを作るようすの説明と、2つに大きくわけることができる。

4. ことばに関する事項

(1) 文・注意したい文型

□ は □ から、□ 。

□ ので □ は □ 。

□ ですが □ 。

• 並列の表現

□ のほかに □ や □ や □ など……。

□ □ □ など……。

□ たり □ たり……。

• 直接話法と間接話法

「 □ 」とおしえてくれました。

とてもたいへんだそうです。

• 伝聞と様態の表現

とても たいへんだ [・][・][・][・] そうです。

夜もねられないことがある[・][・][・][・] そうです。

みんなとてもいそがし[・][・][・][・] そうです。

• 文末表現

わらをおろしていました。

むしゃむしゃとたべます。

牛乳をのませます。

〜とおしえてくれました。

〜とほろそうしていました。

入れるのだろうと思いました。

• 副詞の働き

ずいぶん たくさん たべるだろう。

とても たいへんだ そうです。

たくさん たべますよ。

• 使役の働き

にくを たべさせますが…。

牛にゆうを のませます。

(2) 語 句

指導する語句を次の表のように、どの方法で、いつ扱うかまとめておくと便利である。

方 法 句	1 視 覚	2 動 作 化	3 経 験	4 定 義	5 同 類 ・ 反 対 語	6 文 脈 中	7 解 説	8 辞 書	9 語 源	10 引 例	11 構 造	12 短 文 作 り (熟 語)	13 比 較	14 省 略	15 お き か え	16 発 音 ・ ア ク セ ン ト	17 読 み ・ 書 き	扱 う 段 階			備 考		
																		導 入	内 容 追 求	ま と め			
思 う						○											○	○	○	○			
ほ し 草	○																	○	○	○	○	実物を用意する	
1 日 分											○							○	○	○	○		
母 お や														○			○	○	○	○	○	父親と比較させて	
夜 中																		○	○	○	○		
名 ま え																		○	○		○		
切 る																		○	○		○		
人 間																		○	○		○		
夜																		○	○		○		
お か ら	○						○														○		
め か た			○																		○		
き ろ く							○														○		
オート三りん	○																				○	絵で	
かたよつたり						○						○									○	○	
な れ な い						○															○		
ラ イ オ ン																	○	○				ライオンにならぬよう。	
チンパンジー																	○	○				チンパンジーにならないよう。	
ーだそうです										○							○	○	○			「そう」にアクセント	
ーですから						○				○	○										○		
ずいぶん														○	○						○	副詞の働き	
ーのほかはーや ーやーなど												○									○	並列表現	
ーたりーたり												○									○	○	
こわしやす												○									○	○	
のませます												○									○		
たべさせます						○						○									○	○	
いそがしそうです						○						○	○				○		○	○	○	○	様態と伝聞のちがひ。
ざ る																					○		
ーだろうと						○															○		

(3) 文字 新出漢字 思[●]う ほし[●]草 一[●]日分 母[●]おや 夜[●]中 名[●]まえ 切[●]る
読みかえ漢字 人[○]間 夜[○]

(4) 発音 ぞう(^Xドウ) むし^Xゃむし^Xゃ(ムサ^Xハ^Xサ)

ま^Xぜて(マ^Xデテ)
たいへんだ^Xなと(ナ^Xート)

じゃが^Xいも(鼻濁音)

いそが^Xしぞう(鼻濁音)

ライ^Xオン(ライ^Xオン)

チンパン^Xジー(チンパ^Xージー)

母^Xおや(ハ^Xオヤ)

ーだそ^Xうです。 >(両者のアクセントのちがい)

いそがしそ^Xうです。

5. 児童の実態(男18 女18 計36名)

(1) 新出・読みかえ漢字の読み

(2) つまづきのみられる語句

	思 う	ほ し 草	一 日 分	母 お や	夜 中	名 ま え	切 る	人 間	夜
正答 (人数)	21 (58)	20 (56)	14 (39)	16 (44)	15 (42)	18 (50)	16 (44)	14 (39)	20 (56)
誤答 (人数)	15 (42)	16 (39)	22 (61)	20 (56)	21 (58)	18 (50)	20 (56)	22 (61)	16 (44)

オート三りん	17人
ほし草	6人
かたよつたり	21人
なれない	9人
おから	15人
めかた	5人
きるく	8人

()内は%

(3) 見たこと、聞いたこと、思ったことに読み分けることができる。

文	正(%)	誤(%)
見たことを書いた文	47	53
聞いたことを書いた文	6	94
思ったことを書いた文	47	53
三種類の文について	3	97

左表のような実態であるが、(3)の見たこと聞いたこと思ったことに読み分ける能力は非常にひくい。「こやの中に、わらの山が、できました。」「ぞうが こやに はいって来て、わらを たべはじめました。」などを、思ったことにしたり、「ゴリラのところの『ゴリラは、おなかを こわしやす^いから、

えさをなげないでください。』と、何かいも ほうそうしていました。」などを、見たこととしている。ライオンのえさのところでは、「ライオンの子どもを牛にゅうで、そだてるのは、とても たいへんだそうです。」「かかりの人は夜もねられないことが、あるそうです。」と伝聞の表現がされている文では、聞いたことであると理解できるが、「ライオンのおやには、にくをたべさせますが、子どもは、ライオンの母おやのちちか、牛にゅうで、そだてるのです。」

「夜中でも、時間をきめて牛にゆうをのませます。」などは、係りの人から聞いたこととは判断できない。聞いたことの文を読みわけることができたのは、たったふたりである。

6. 指導法について

- 学習の個別化をはかるために、作業用紙を使用させた。文意識をもたせるために全文に、センテンス番号をつけさせ、それぞれの文が、見たこと、聞いたこと、思ったことのうち、どれに属するか、分けさせるようにさせた。また、作業用紙への書きこみは、家庭学習とし、全体学習で読みとったことは、書き加えたり、訂正させるようにした。また、どうして見たことにしたか、という理由づけとなる文末表現に、印をつけさせるようにした。
- 語句指導については、指導の回数を多くすることを心がけた。導入の段階で問題となる語句に気づかせ、内容を追求し深める段階では、文脈に即した語句の意味や、働きを、練習の段階では短文作りやことばづくりなどによって、意味や使用法を確実にさせ、文字・語句の拡充を図るよう留意した。

<作業用紙の例>

きろくぶんしょうを読む (3) ライオンのえさ 二の三 柴崎正人

見 た こ と	1	ライオンの子どもが牛にゆうをのんでいました。
	2	ライオンのおやには、にくをたべさせますが、子どもは、ライオンのおおやのちちか、牛にゆうでそだてるのです。
思 っ た こ と		
き い た こ と	3	ライオンの子どもを牛にゆうでそだてるのは、とてもたいへんだそうです。
	4	夜中でも、時間をきめて牛にゆうをのませます。
	5	かかりの人は、夜もねられないことがあるそうです。
	2	ライオンのおやには、にくをたべますが、子どもは、ライオンのおおやのちちか、牛にゆうでそだてるのです。

7. 指導過程

時間	学習活動	文字・語句の指導
第一時	<ol style="list-style-type: none"> 動物のえさについて話し合う。 全文を読み、むずかしい語句に線をひく。 指名読み。 学習のねらいをきめ、学習の計画をたてる。 センテンス番号をつけ、作業用紙の書き方を知る。 新出漢字の読み書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字カードを示す。 思う ほし草 一日分 人間 母おや 夜中 夜 名まえ 切る 誤読を訂正する。 ライオン 夜もねられない ーだそうです。(アクセントのちがひ) チンパンジー 筆順の指導(漢字ノートに) 思 草 分
第二時	<ol style="list-style-type: none"> 「ぞうのえさ」を読む。 ぞうは何をどのように食べていたか読みとる。 ぞうのようすを見て、どのように思ったか読みとる。 係りの人は、どんな話をしたか読みとる。 ぞうのえさと食べ方についてまとめる。(ノートに) 作業用紙の整理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ぞう・じゃがいもなどの発音に注意させる。 「わらをはなでまいて、口に入れむしゃむしゃと食べます。」…さし絵で動作化で 注意する文型 「大きいのですから。」 「ずいぶん たくさん たべるだろう。」 副詞の用法は、省略した例文と比較して、わからせる。 ほし草……実物で 「1日分のえさのめかたは、……」わらで30〜40たば、じゃがいもで20〜30バケツ 「ーのほかはーやーやーなど」(口答作文で)
第三時	<ol style="list-style-type: none"> 「ゴリラのえさ」を読む。 ゴリラと人間のにているところを読みとる。 おなかをこわしやすいわけを読みとる。 チンパンジーやゴリラのえさについてまとめる。(ノートに) 作業用紙の整理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> おなかをこわす(例をあげて) かたよる(文脈の中で) 並列表現—口答作文で、 たべすぎたり かたよったり パン たまご 牛にゅう…など (ぞうのところの表現と比較して) 理由を示す「から」 おなかをこわしやすいから やっていますから 誤読の訂正 チンパンジー 漢字練習 人間 母 夜
第四時	<ol style="list-style-type: none"> 「ライオンのえさ」を読む。 ライオンのところで何を見たか 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの発音に注意させる。 「のんでいました。」

時間	学 習 活 動	文 字 ・ 語 句 の 指 導
第 四 時	<p>読みとる。</p> <p>3. かかりの人からどんな話を聞いたか読みとる。</p> <p>4. ライオンのおやと子どものえさについてまとめる。(ノートに)</p> <p>5. ことばの練習をする。</p> <p>6. 作業用紙の整理をする。</p>	<p>「たべさせます。」 「そだてるのです。」 「たいへんだそうです。」 「のませます。」</p> <p>文末表現に印をつけて読んで読み分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 間接語法と直接語法を比較させる。 • 使役の助動詞「せる」「させる」の使い方 • 母 夜 名 切の漢字練習
第 五 時	<p>1. えさを作っているところを読む。</p> <p>2. どんなようすを見たのか読みとる。</p> <p>3. 見たことについて、どんなことを思ったか読みとる。</p> <p>4. 最後の文に書かれた感想について話し合う。</p> <p>5. 作業用紙を整理し、読みとったことをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「いそがしそうです」のアクセントに注意 「ませて」の発音→「マデテ」に注意 「じゃがいも」の鼻濁音に注意 「たいへんだな」→「タイヘンダナー」に • 文末表現のちがいに気づかせたい。 「ならんでいました。」 「やさいを切っていました。」 「まぜている人もいました。」 「入れるのだろうと思いました。」 「とてもいそがしそうです。」 「たいへんだなと思いました。」 • 「おから」「ざる」…実物で • 「たくさん」「とても」などの副詞は省略した文と比較して、働きをわからせる。
第 六 時	<p>1. 最後の文を手がかりに文章全体の組み立てを調べる。</p> <p>2. 係りの人に聞いたことの表現のしかたを調べる。</p> <p>3. 並列表現について調べる。</p> <p>4. 思ったことの表現を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「どうぶつのお世話」の内容を「えさをやる世話」と「えさを作る世話」と2つにとらえさせたい。書き出しの文「えさをやる[㊟]ところ[㊠]」と「えさを作る[㊟]ところ[㊠]」をおさえて。 • 直接語法、間接語法について比べる。 • <input type="text"/>のほかは<input type="text"/>や<input type="text"/>や<input type="text"/>など • <input type="text"/>, <input type="text"/>, <input type="text"/> など • <input type="text"/>たり <input type="text"/>たり <p>口答作文させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ずいぶん たくさん たべるだろうと思って、 • そこへ入れるのだろうと思いました。 • みんな とても いそがしそうです。
第 七 時	<p>1. 使役の助動詞の使い方を調べ練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「たべさせ^{せる}」「のませ^{せる}」の例から「させる」と「せる」のつくことばをあつめさせる。これらの助

時間	学 習 活 動	文 字 ・ 語 句 の 指 導
第七時	2. 伝聞・様態の「そうです」について調べる。 3. かたかな書きのことばの練習をする。	動詞のついた動詞を使って短文作りをさせる。 ・調たいへんだそうです。」と「いそがしそうです。」のちがい、使い方(短文づくり) ・筆順や字の形に注意 オート ゴソラ パナメ サンパンジー パチッ ・発音にも注意させる。
第八時	1. 漢字の練習をする。 2. 「むしゃむしゃと」「思う」付いぶん「切る」「一ので。」を使って短文作りをする。	・筆順、字体に注意して書かせる。 ・漢字を使ってのことば作り(かんじノートに) 草 名 夜 母 分 ・新しい漢字なども短文の中で使えるようにさせた。
第九時	1. テストをする。 2. 読みのテストをする(朗読)	・内容を読みとるための問題(自作) ・ことばに関する事項の問題(自作) ・合格した児童にはさくらの印をやる。

B 学 習 指 導

1. 指 導 案 (単元全体の目標、指導計画は省略)

① 題 材 名 ライオンのえさ

② 本時の目標 見たこと、聞いたこと、思ったことを読み分け、ライオンのおやと子どものえさを読みとる。

③ 展 開

指導事項	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料及び関連	評価の観点
導入	1. 前時の学習活動を想起する。			
展開	2. 本時の学習のめあてを確認する。 3. 内容を読みとる。 (1) 自由読み。 (2) 指名読み。 ・発問 わかったことや気がついたことがあるか。 (3) ライオンのところで	・見たこと、聞いたこと、思ったことに読み分けライオンのおやと子どものえさを読みとる。 発音の個別指導 ・M児、U児 ライオンの発音ができない。 ・E児 T児 Y児「一だそうです」のアクセント	○センテンスカード 作業用紙(児童)	発音を正しくゆっくり読めたか。(音読で)

	指導事項	学習活動	指導上の留意点	資料及 び関連	評価の観点
展 開		見たことは何か調べる。 •発問 ライオンのところで何を見たか、どの文に書いてあるか。 (4) 係りの人から聞いたことを調べる。 •発問 かかりの人からどんな説明を聞いたか。 (5) ライオンのおやと子どものえさについてまとめる。	•物語りではないがわかったことや考えたことを発表させ、問題をつかませる。 文末表現に気づかせる。 •のんでいました。 •たべさせます。 •そだてるのです。 •たいへんだそうです。 間接話法と直接話法を比較させ、説明されたことを読みとる。 ライオンのおやは□□子どもは□□の文型にまとめさせる。	2年下 「ひこうきにのった」	文末表現のちがいに気づき、見たこと、聞いたことに読み分けることができたか。(作業用紙で発表で) ライオンのおやと子どものえさが読みとれたか。(ノートで) 読みとるために必要な語句がわかったか。(ノートで)
	終 末	4.学習のまとめをする。 •発問、見たこと、聞いたことに読みわけの方法は、「のむ」と「のませる」のちがいは •作業用紙の整理をする。	具体的な方法として考えさせる。 使役の助動詞の使い方 母夜名 切の漢字練習		

3. 板 書

ライオンのおやと子どものえさ

- ライオンのおやと子どものえさは何か。
- 見たこと きいたこと 思ったことにわける。

ライオンのところで見たこと

①ライオンの子どもの牛にゆうをのんでいました。

かかりの人からきいたはなし

② ライオンのおやには、にくをたべさせますが、子どもは、ライオンのおやのちちが牛にゆうでそだてるのです。

③ ライオンの子どもの牛にゆうでそだてるのは、とてもたいへんだそうです。

④ 夜中でも、時間をきめて牛にゆうをのませます。

⑤ かかりの人は夜もねられないことがあるそうです。

つたえるいい方

① ーだそうです。

② 「 」とおしえてくれました。

まとめ

ライオンのおやは にくをたべます。
子どもは 母おやのちちが牛にゆうをのみます。

〇〇
のむーのませる

〇〇〇
たべるーたべさせる

母夜名切

4. 評価について

内容を文章に即してどの程度読みとれるか読解力を見るための問題と、指導した語句がどの程度身についたかを見るための問題と二つの角度から評価してみた。紙面の都合上、その一部の結果を示したいと思う。この単元の目標の一つである、見たこと、聞いたこと、思ったことに読み分ける力については、次の表のようである。

見たことを書いた文がわかる。	89% (事前テストでは47%)
聞いたことを書いた文がわかる。	67% (" 6%)
思ったことを書いた文がわかる。	75% (" 47%)

文末に印をさせて答えるようにさせたので読みわかる方法が具体的に理解できたようである。

5. 授業の反省

- ① 文末に印をつけさせ、児童に意識させながら読み分けさせたのは理解しやすかったが、②の文と④の文の文末は「…牛にゆうで、そだてるのです。」「牛にゆうを のませます。」と現在形で終わっているのに気づかせただけでなく、「…牛にゆうで そだてるのだそうです。」「牛にゆうをのませるのだそうです。」と伝聞の意味が省略されているということまで、ほりさげるべきだった。
- ② 使役の助動詞「せる」「させる」は、学習のまとめの段階で扱ったが、もっと、文脈の中の指導も必要であった。

4 問題点

1. 児童がつまづいている語句の調査のし方については、さらに、ほりさげて研究すべきである。つまり、指導前の調査は、語句の面、読解力の面から、児童の実態を確実につかむべきであろう。
2. むだをはぶく意味からも、指導すべき語句の学年別系統はぜひ、たてなければならない。重複して指導している例や、指導すべき学年で指導しなかったという語句があってはならないと考える。
3. 習得した語句は、作文の中に生かして使えてこそ身についたといつてよかろう。練習の段階では作文などを扱うのもよいではないか。

5 おわりに

何の成果も目に見えぬうちに、この一年も終わろうとしている。実に、つたない実践であります。が、先輩の先生方のご指導をいただきたい。

評

語句指導はもっとも基礎的なことであるが、従来ともすると教材で読解を進めていくとき、どうしても文章の内容をつかんでいくことが指導の主になるため、そこに出てくるいくつかの語句は、難語句などとよぼれて、文章を読んでいくための不要な抵抗としてじゃまものに扱われ、語句を習得していくために十分な指導がなされないうままに済んでしまったりする。

またこれとは逆に文字とか語いとかが余り強く意識されて、その学習のために必要以上の力を費し、読解指導が正当に行なわれないうちがある。つまり文の内容を読みとる学習と語句習得のための学習とが二元的に考えられやすいことである。この点からこの実践記録語句指導の方法としてもっとも正当な考え方で注目したい点は、語句指導の指導過程をうちたてたことである。すなわちA段階として読みの抵抗となる文字・語句(概観して学習計画をたてる段階)B段階、読みとりを深めるために必要な文字・語句(内容を追求して深める段階)C段階、深化・拡充をはかる必要のある文字・語句(整理して練習する段階)の過程をふんでいることである。次に語句そのものを類別してどのような角度から扱うか指導を試みている点等参考となる研究である。